

ORACLE HCM WORLD

DALLAS | March 20-22, 2018

Tomorrow's HR,
Today

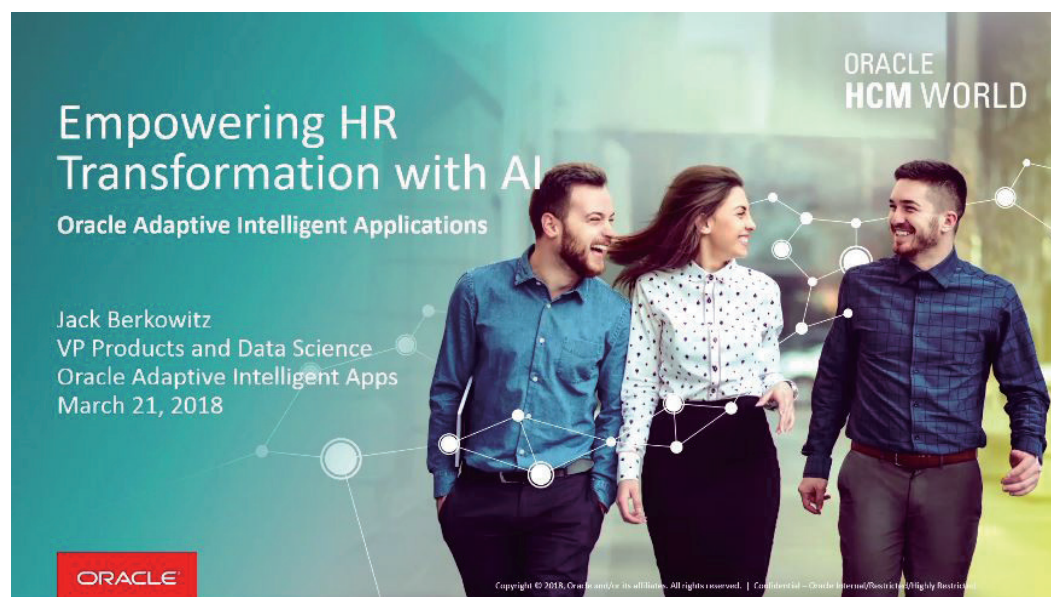


Oracle HCM World 2018 講演レポート

人事業務への AI 活用の現在と未来

Oracle HCM World 2018 の 2 日目に行われたこの講演では、オラクルでデータサイエンスを統括するジャック・バーコビッツ氏がオラクル AI (Adaptive Intelligent) Apps のロードマップと、今後搭載される予定の機能が HR に何をもたらすかを語りました。AI による HR、特に人事異動にもたらす効果を、具体例を交えて説明しています。

ジャック・バーコビッツ氏
オラクル プロダクツ・アンド・データサイエンス バイスプレジデント



オラクルのデータサイエンス統括者がオラクル AI (Adaptive Intelligent) Apps の現在と未来について、製品の機能を訴えるだけでなく、現状の人事業務の課題とその解決策を具体例を交えて説明し、人事業務になぜ IT テクノロジーが必要なのか、それがどのような効果をもたらすのかを、テンポよく講演しました。

人事担当者の現状

「人事担当者は、日々の業務において数多くの“人”と関わる必要があります。

自社の従業員や応募者、すべての“人”に一对一で接する必要があり、各個人のスキルを把握し適切な対応をとらなければなりません。これらを効率的に行うために、IT テクノロジーが必要なわけです。

オラクルを例にお話をします。

オラクルが提供する包括的な人事業務プロセスをサポートするクラウド・アプリケーション (Oracle HCM Cloud) で特徴的なのは、オラクルは人事業務プロセスの各所に AI を最初から組み込んでおり、お客様側で AI の設計が不要である点です。オラクルは創業から 40 年以上経ち、従業員に関する膨大なデータを持っています。この膨大な人事データを活用し、私たちは人事担当者、ビジネス・リーダー、従業員、それぞれの仕事の役に立つ機能を構築し続けてきました。」

オラクル AI (Adaptive Intelligent) Apps の特徴

「これから、オラクル AI を 4 つの特徴毎に紹介します。

1. 人事に関する知識・知見の反映

オラクル AI (Adaptive Intelligent) Apps は、先ほど紹介したとおり人事業務プロセスの各所に最初から AI が組み込まれており、お客様側での AI 設計が不要であるため、データサイエンティストを必要としません。人事担当者は、昇給制度、パフォーマンス評価方法などのデータがあらかじめ組み込まれた Apps をスムーズに利用できます。

2. 膨大な匿名データによる分析

オラクルのデータクラウドは世界最大のコンシューマデータで、かつビジネスデータでもあります。約 50,000 名の匿名プロフィールに、約 65,000 の属性があります。このデータは現在も継続して収集しており、企業の分野、成長スピード、会計情報など、あらゆるビジネスデータがオラクル AI (Adaptive Intelligent) Apps を支える基盤となっています。

3. 意思決定科学の応用

現実的に人事に関するアドバイスを提供するにあたり、データとアルゴリズムを用い、意思決定科学的な対応が実現しています。

Oracle Adaptive Intelligent Apps Core Requirements



4. ハードウェアリソース

データを分析し業務に活用していくには、膨大なハードウェアリソースが必要と思われがちですが、オラクルは、オンデマンドであるべきと考えています。つまり、必要なタイミングで、必要な分析を実現できるハードウェアリソースがあればよいのです。」

AIによる人事の変革

「オラクルが提供する包括的な人事業務プロセスをサポートするクラウド・アプリケーション（Oracle HCM Cloud）は、膨大なファーストパーティのデータ（従業員データ、ビジネスデータ）と、外部の汎化された膨大なデータを組み合わせて活用し、人事業務に役立つ機能を提供しています。

ここで重要な点は、異なる領域のデータを活用することです。人事データに、会計データや営業売上データなどの異なる領域のデータを活用するのです。

具体的には、営業成績や勤務実績を参照してインセンティブを与える、といったふうです。そこには、AIならではの、人間には不可能な洞察が導き出されることもあるかもしれません。」

では、よりよい人事システムのためには、何が必要でしょうか。

この問いかけにバーコビッツ氏は「よりよい人事システムのためには、スマートな雇用、スマートなエンゲージメント、スマートな働き方、スマートな適応が必要」と語ります。

機械学習やAIを用いると、それは可能なのでしょうか。具体的な例として、再度オラクルを例にとり続けます。

スマートな雇用

「私たち人事部門は、人々を会社に惹きつける必要があります。具体的には採用活動において、応募者のパーソナライゼーションを行い、最適なジョブの職務要件と適合させていく必要があります。ここで課題となるのが、5～10通の履歴書を読んで、その人々と面接する必要があるので。例を見てみましょう。

採用担当者がOracle HCM Cloudに入ります。ここには求人している情報が多数あり、QA機能があります。

多数の応募が来ているのが見て取れます。この時点ですでに、システムは採用担当者が思うような順序で、または優先して見るべき人を順序付けて表示しています。どうやって処理しているのでしょうか。彼らの履歴書や仕事の説明などのテキストを解析し、ニューラルネットワークを用いて分析しているのです。加えて、過去に同様の仕事で採用したときの従業員の勤務期間も考慮しています。このように機械学習技術を通じてあらゆるデータを結びつけることで、適切な応募者を見ることができるのです。結果として、採用担当者は、順位づけされた情報をもとに、集中して検討を進めることができます。

重要なのは、その他の人が優秀でないという意味ではなく、「この仕事において最適ではない」と判断していることです。また、従業員を昇格させたときに後任を探す場合にも、システムの中で現在の従業員と似た人を探すことが可能です。

さらに、逆のこと、つまり応募者に最適なジョブを探すことも可能です。応募者に求人票を探させるのではなく、彼らに合ったジョブを提供するという考えかたのもとでも有用なシステムなのです。」

スマートな働き方

「次に権限、自動承認の話です。おそらく従業員の大半が、毎日直面する作業だと思います。経費報告、出張申請など、ありとあらゆる申請に対してです。人事担当者が採用活動の際に直面する例を見てみましょう。

採用活動をする際、人事担当者は応募者一人一人にオファーする報酬など最適なパッケージを準備し、理解した上で進める必要があります。膨大な時間を要していたこの作業を、オラクルのAI（Adaptive Intelligent）Appsは支援します。具体的には、過去のデータをフィルタリングした上で最適なパッケージを人事担当者に提示するのです。」

スマートなエンゲージメント

「従業員のエンゲージメント（帰属意識）を高めるために、パーソナライズされた新人研修や魅力的なキャリアプランニングなどを人事担当者は提供する必要があります。これも例で見てみましょう。

ここにある従業員がいます。この従業員は当社にきて2年目です。マネージャは、この従業員についていくつかアラートを受け取ります。この従業員が2年前から、昇給がなく、評価の結果も低いことを示すアラ

トです。この従業員のために、そして導く立場のマネージャに、人事担当者は何ができるでしょうか。ここではAIが昇給や、トレーニングへのオファー、イベントへの招待を（人事担当者の手を煩わせることなく）提案しています。

またもう一つの例です。この従業員はチャットボットで社内の経費精算方法などの情報を探しています。ボット上では他の人の類似した答えが表示されるので、この従業員は求めていた情報に短時間でたどりつくことができます。これも、オラクルがFAQシステムの構築で得た実績をHCMに適用し実現したものです。キャリアプランの提案なども、同様の仕組みで実現可能です。」

スマートな適応

「先ほどお伝えした、新しい人材を採用したり、新しい仕事を従業員にオファーしたり、従業員のエンゲージメントを高める活動は、すべて各個人に適応（寄り添った）した支援であり、AIが実現していきます。」

人事業務へのAI活用の未来

「最後に、人事業務へオラクルのAI (Adaptive Intelligent) Apps を活用することで実現する未来について、ふれたいと思います。先ほどお伝えしたように、これらはもはや絵空事ではありません。ビジネス変革をもたらすことができるITテクノロジーなのです。これから先も、人事業務に役に立つ機能をオラクルは提供していきます。」

オラクルのデータサイエンス統括者であるバーコビッツ氏は、人事業務のビジネス変革をAI活用で支援することをお伝えし、講演を締めくくりました。

日本オラクル株式会社

〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター
oracle.com/jp

お問い合わせ窓口



TEL 0120-155-096
URL oracle.com/jp/contact-us